

秋田市食品ロス実態調査報告書

令和元年9月26日版

1 実施概要

■実施日時	令和元年8月22日(木)23日(金)
■作業場所	秋田市環境総合センター 旧焼却炉
■作業時間	8:30~17:00(昼食休憩1時間、準備片付け含む)
■作業体制	秋田市職員のべ11名(地域別家庭ごみ組成調査) 女性作業員のべ6名(※地域別家庭ごみ組成調査) 受託業者男性のべ6名(食品ロス調査)
■調査試料	<ul style="list-style-type: none"> 同調査と同日に行う「地域別家庭ごみ組成調査」の調査資料である家庭ごみ100袋のうち、生ごみに分別された試料を「食品ロス実態調査」の調査試料とした。 調査資料である100袋の地区別の収集数は、中央地区、東部地区、西部地区、南部地区、北部地区、河辺・雄和地区の6地区の人口構成比により以下のとおりとした。 <ul style="list-style-type: none"> 【8月22日】 中央地区(檜山11袋)、東部地区(東通り10袋)、西部地区(新屋元町又は日吉町5袋)、南部地区(御所野8袋)、北部地区(下新城野6袋、金足6袋)、河辺・雄和地区(河辺4袋) 【8月23日】 中央地区(川尻6袋、大町6袋)、東部地区(添川4袋、旭川4袋)、西部地区(新屋勝平町6袋)、南部地区(上北手8袋)、北部地区(飯島12袋)、河辺・雄和地区(雄和4袋) 調査試料の重量は、国の「家庭系食品ロスの発生状況の把握のためのごみ袋開封手順書」で示している「100世帯分程度のごみ袋又は生ごみで100kg~150kg程度」としていることを踏まえ、上記100袋に含まれていた生ごみ約220kgとした。

2 調査方法

調査方法は、国の「家庭系食品ロスの発生状況の把握のためのごみ袋開封手順書」に従って以下のとおり実施した。

(1) 試料採取

各地区の収集を担当する委託業者の運転員が、それぞれ当該地区のごみ集積所から、予備の袋も含め無作為に採取し、破袋しないよう作業所まで運搬、到着後、必要袋数を市職員が無作為に抽出した。

(2) 作業内容

- ・調査対象となる100袋に含まれる各地区ごとの食品廃棄物(生ごみ)の重さを計量した。
- ・食品廃棄物のうち、手つかず食品(100%残存・50%以上残存・50%未満)と食べ残し、調理くず、その他に分類し、重さを計量した。
- ・手つかず食品の賞味期限および消費期限を確認した。

3 調査結果

(1) 試料中の食品廃棄物の割合

調査対象とした試料について（図表 1）、6 地区の 100 袋の合計重量は 414.6kg、1 袋あたりの平均重量は約 4.1kg であった。地域別に見ると、①中央地区は 23 袋で 88.6kg、②東部地区は 18 袋で 65.7kg、③西部地区は 11 袋で 42.2kg、④南部地区は 16 袋で 61.2 kg、⑤北部地区は 24 袋で 108.9 kg、⑥河辺・雄和地区は 8 袋で 48.2 kg であった。

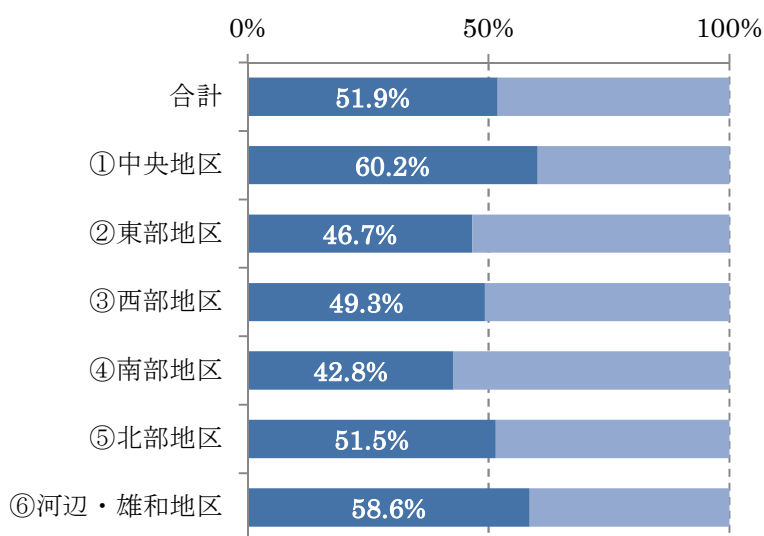
図表 1 調査対象とした試料概要（秋田市）

	袋数(個)	重量 (kg)	容量 (L)	袋あたり	
				重量 (kg)	容量 (L)
合計	100	414.63	3,405	4.1	34.1
① 中央地区	23	88.57	740	3.9	32.2
② 東部地区	18	65.65	590	3.6	32.8
③ 西部地区	11	42.16	320	3.8	29.1
④ 南部地区	16	61.16	505	3.8	31.6
⑤ 北部地区	24	108.92	920	4.5	38.3
⑥ 河辺・雄和地区	8	48.17	330	6.0	41.3

※合計は、6 地区の調査結果を足して算出したもの

試料中の食品廃棄物の割合について（図表 2）、6 地区の合計では 51.9%、地域別に見ると①中央地区が最も高く 60.2%、次いで⑥河辺雄和地区が 58.6%、⑤北部地区が 51.5%、③西部地区が 49.3%、②東部地区が 46.7%、④南部地区が 42.8%となっている。

図表 2 試料中の食品廃棄物の割合（秋田市）



(単位:kg)

	サンプリング試料 A	うち、食品廃棄物 B	食品廃棄物割合 C(=B/A)	食品廃棄物以外 D(=1-C)
合計	414.63	215.23	51.9%	48.1%
①中央地区	88.57	53.35	60.2%	39.8%
②東部地区	65.65	30.65	46.7%	53.3%
③西部地区	42.16	20.77	49.3%	50.7%
④南部地区	61.16	26.16	42.8%	57.2%
⑤北部地区	108.92	56.10	51.5%	48.5%
⑥河辺・雄和地区	48.17	28.21	58.6%	41.4%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの

(2) 食品ロス（直接廃棄、食べ残し）の割合

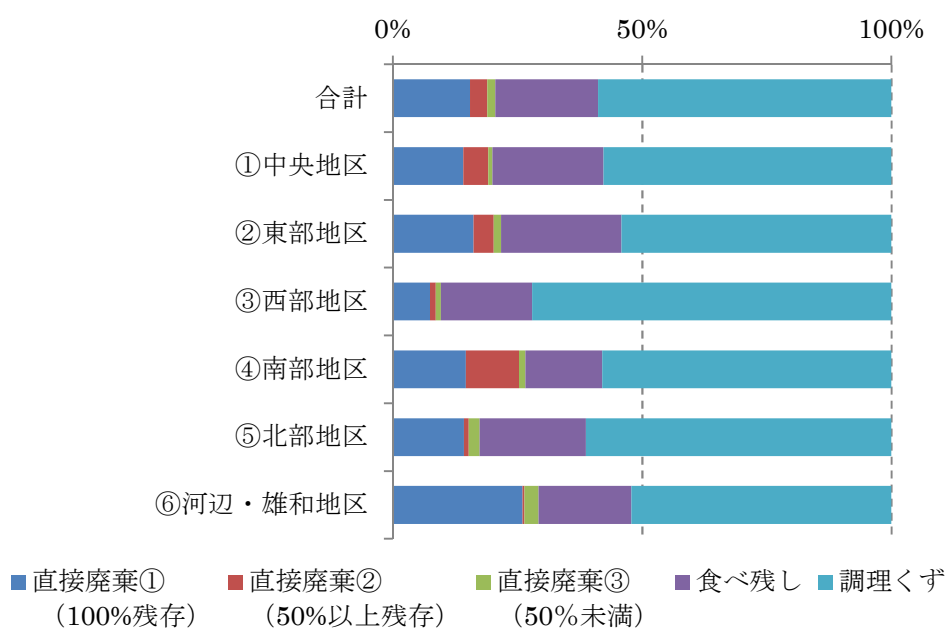
食品廃棄物のうち、調理くずを除く、直接廃棄および食べ残しを食品ロスとする。

食品廃棄物のうち食品ロスの重量割合について（図表3）、6地区の合計では36.3%、地区別に見ると⑥河辺・雄和地区が最も高く42.7%、次いで②東部地区が40.3%、①中央地区が37.2%、④南部地区が36.1%、⑤北部地区が34.3%、③西部地区が24.5%となっている。地区ごとに食品ロスの割合は異なり、⑥河辺・雄和地区食品ロスの割合は、③西部地区よりも18.2ポイント多い。

直接廃棄に着目すると、6地区の合計では、まったく手付かずの直接廃棄（100%残存）は、食品廃棄物のうち13.6%を占めており、⑥河辺・雄和地区で23.3%と高く、次いで②東部地区が14.2%、④南部地区と⑤北部地区が12.6%、①中央地区が12.4%、③西部地区が6.5%となっている。

同様に、食べ残しに着目すると、6地区の合計では18.1%、②東部地区が21.2%と高く、次いで、①中央地区が19.6%、④南部地区が最も低く13.2%となっている。

図表3 食品ロス（直接廃棄、食べ残し）の割合（秋田市）



	食品ロス割合	うち直接廃棄（手付かず）			うち食べ残し
		100%残存	50%以上残存	50%未満残存	
合計	36.3%	13.6%	3.1%	1.4%	18.1%
①中央地区	37.2%	12.4%	4.4%	0.7%	19.6%
②東部地区	40.3%	14.2%	3.5%	1.3%	21.2%
③西部地区	24.5%	6.5%	1.0%	0.9%	16.1%
④南部地区	36.1%	12.6%	9.2%	1.1%	13.2%
⑤北部地区	34.3%	12.6%	0.8%	1.9%	18.9%
⑥河辺・雄和地	42.7%	23.3%	0.3%	2.5%	16.6%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、食品ロス割合の内訳（直接廃棄・食べ残し）の合計は、食ロス割合と合致しない場合がある。

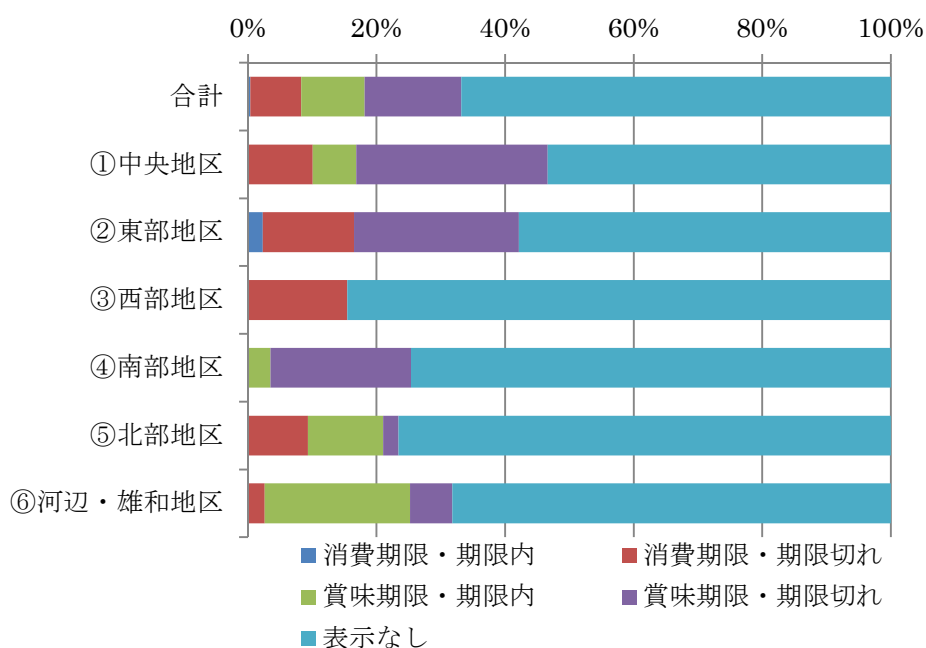
(3) 直接廃棄されたものの消費・賞味期限について

直接廃棄（100%手付かず）の消費・賞味期限の記載状況・期限について（図表4）、6地区の合計では「表示なし」が最も多く66.8%であり、消費期限の表示があったものは8.3%（期限内が0.3%、期限切れが8.0%）、賞味期限の表示があったものは24.9%（期限内が9.8%、期限切れが15.1%）となっている。

消費期限に着目すると、②東部地区においてのみ「期限内」のものが2.3%あり、ほとんどの地区で「期限切れ」のもののみであった。

賞味期限に着目すると、「期限内」のものが直接廃棄（100%手付かず）のうち9.8%、地区別に見ると⑥河辺・雄和地区が最も高く22.6%となっている。

図表4 直接廃棄（100%手付かず）の消費・賞味期限について（秋田市）



	消費期限		賞味期限		表示なし
	期限内	期限切れ	期限内	期限切れ	
合計	0.3%	8.0%	9.8%	15.1%	66.8%
①中央地区	0.0%	10.1%	6.8%	29.7%	53.4%
②東部地区	2.3%	14.2%	0.0%	25.7%	57.8%
③西部地区	0.0%	15.4%	0.0%	0.0%	84.6%
④南部地区	0.0%	0.0%	3.5%	21.9%	74.6%
⑤北部地区	0.0%	9.3%	11.7%	2.4%	76.6%
⑥河辺・雄和地区	0.0%	2.6%	22.6%	6.6%	68.2%

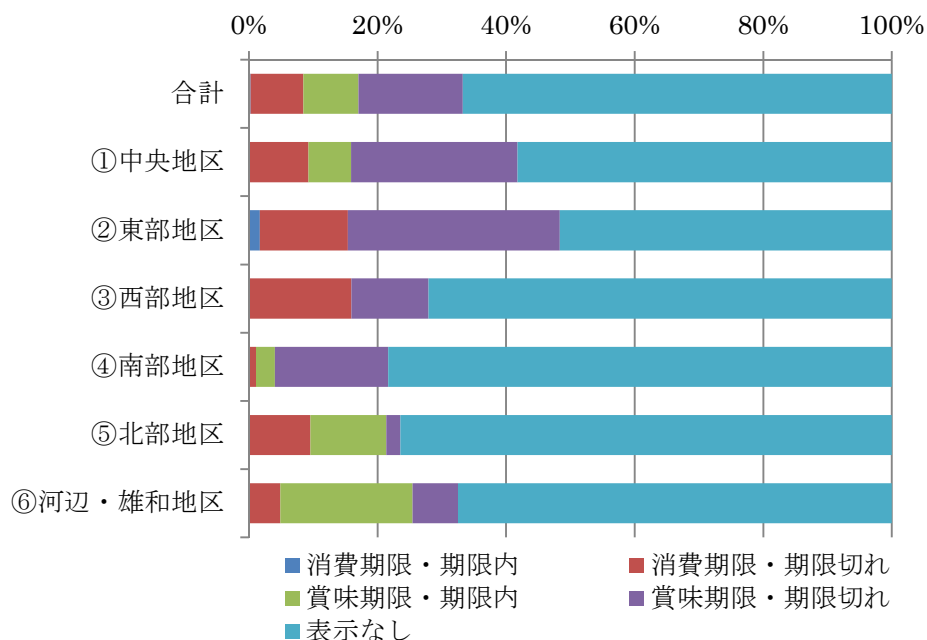
※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、合計が100%にならない場合がある。

同様に、直接廃棄全体（100%手付かず、50%以上残存、50%未満残存）での消費・賞味期限の記載状況・期限について（図表5）、6地区の合計では「表示なし」が最も多く66.7%であり、消費期限の表示があったものは8.5%（期限内0.3%、期限切れ8.2%）、賞味期限の表示があったものは24.8%（期限内8.6%、期限切れ16.2%）となっている。

消費期限に着目すると、「期限内」は②東部地区が1.7%、「期限切れ」は③西部地区が16.0%と最も多かった。

賞味期限に着目すると、「期限内」のものが直接廃棄のうち8.6%、地区別に見ると⑥河辺・雄和地区が最も高く20.6%となっている。

図表5 直接廃棄（合計）の消費・賞味期限について（秋田市）



	消費期限		賞味期限		表示なし
	期限内	期限切れ	期限内	期限切れ	
合計	0.3%	8.2%	8.6%	16.2%	66.7%
①中央地区	0.0%	9.3%	6.6%	25.9%	58.2%
②東部地区	1.7%	13.7%	0.0%	33.0%	51.7%
③西部地区	0.0%	16.0%	0.0%	12.0%	72.1%
④南部地区	0.0%	1.1%	2.9%	17.6%	78.3%
⑤北部地区	0.0%	9.5%	11.8%	2.2%	76.4%
⑥河辺・雄和地区	0.0%	4.9%	20.6%	7.1%	67.5%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、合計が100%にならない場合がある。

(4) 一人1日当たりの食品ロス発生量

調査結果を踏まえて、平成30年度の実績を参考に一人1日当たりの食品ロス発生量を推計すると94.0g/人・日となり、その内訳を見ると直接廃棄（100%手付かず、50%以上残存、50%未満残存）が47.0g/人・日、食べ残しが47.0g/人・日と推計された。

図表6 一人1日当たりの食品ロス発生量（秋田市）

